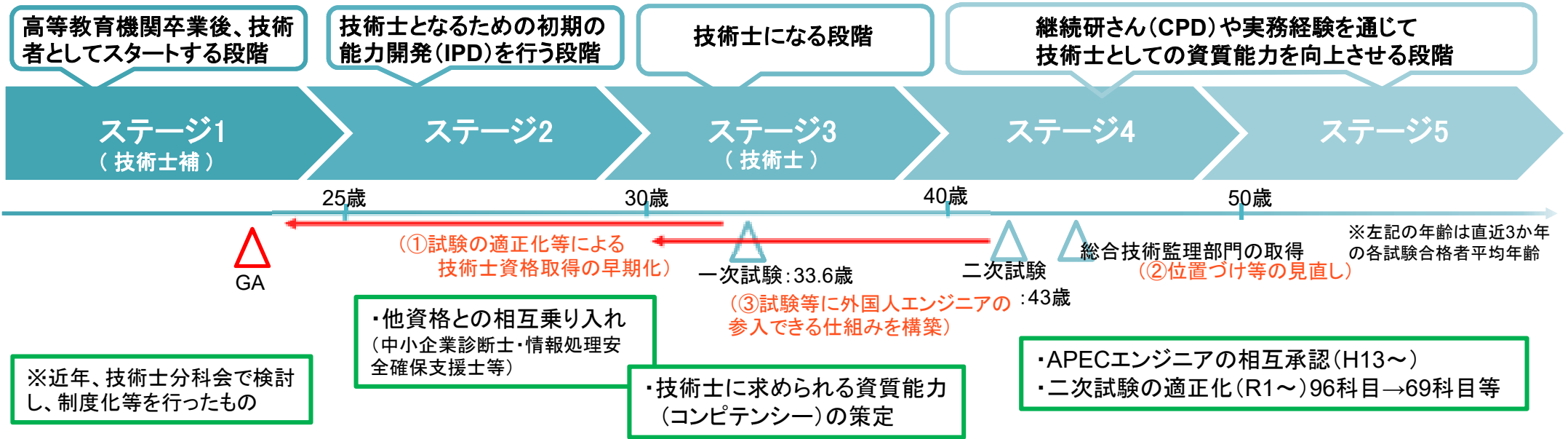


試験検討作業部会での検討課題に関する整理

1. 技術者キャリア形成スキーム(コアスキーム)(例)と技術士制度



2. 本作業部会での今期の検討課題の整理

検討課題	目的	過去の検討内容等
① 第一次試験の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 試験内容を大学のエンジニアリング課程に合わせ、若手の技術者が一次試験に合格しやすい環境を構築する。 部門間の問題の重複を避け、問題作成の全体量を減らすことで、試験の目的を維持しながら難易度の安定化を図り、効率的に試験を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に第7期技術士分科会において、一次試験適正化のための作業部会が設置され、多くの検討がなされた。 上記作業部会では、一次試験の専門科目の大きくくり化について調査・検討を行い、20の部門を5つの「系」に分類して試験を実施する案を作成した。しかし、その在り方については想定される受験層や実際の試験実施方法等を勘案してさらに検討が必要とされ、その検討はこれまで先送りにされている。 基礎科目、適正科目についてはこれまであまり議論されていなかったものの、この有り方についても専門科目と合わせて見直すべき。 適正化の際には技術士補や二次試験との関係も考慮する必要がある。
② 総合技術監理部門に求められる資質能力等の整理	<ul style="list-style-type: none"> 総合技術監理部門の位置づけを明確化し、活用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は20部門と並列の扱いだが、その位置づけや求められる資質能力については様々な意見があるが、これまで具体的な検討には至っていない。 今後の有り方を定めるため、位置づけ等の明確化がまず第一の課題となっている。
③ 外国人エンジニアが受験しやすい試験方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> 国際化の一環として、日本の大学に通う外国人留学生や企業で働く外国人エンジニアにも資格が取得しやすい環境整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第9期技術士分科会における技術士資格の国際的通用性に関する議論の中で、このような施策が講じることができないか、との意見があった。 さらに、日本の大学でエンジニア教育を受けた者が帰国後に資格を取得できるような措置を講じることについても検討を必要とされた。